



西岡恵子 議員

通学路の安全性・放課後の安全な居場所づくり

最も安全なはずの教育環境が今や危機的状況で、特に他県での下校時の連れ去り事件に対し、保護者より不安の声が上がっている。通学路の安全点検、関係機関の連携・対策は万全か。さらに、核家族・共働き世帯の多い本町で、放課後の安全な居場所づくりは早急な課題。児童館はもとより学校の空き教室等の利用は。また、ボランティアの安全パトロールにも限度がある。板野警察署管轄の町内2箇所を駐在所を交番にするよう働きかけていただきたい。

防犯マップ等配付

登下校時の安全対策は、保護者や地域等と

学校と地域社会が協力をし子供を育てる取り組みが展開されていると認識している。

高齢者福祉

一体となり取り組みたい。空き教室の利用は機会があれば検討したい。交番への移行は、担当課と協議したい。

学力の向上、地域の教育力の再生

教育は家庭・地域・学校と連携して行うものといわれながら、その多くは学校に委ねられていたのが現状である。その反省から地域の教育力と学校本来の教育技術を融合させ、地域全体で子育てに取り組む「学社融合」活動が期待されているが、その取り組みは。

地域の組織や活動を把握する必要がある

各学校では総合学習で外部講師を招き、藍染め等に取り組み、その成果を発揮している。

設置計画・設置場所の選定は。有効活動のため町民への広報の徹底を。

4台設置予定

設置場所の拡大は状況を見て検討。周知も行っていきたい。

新型インフルエンザの対策について

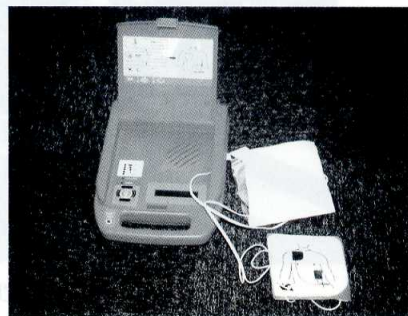
現在、世界的流行の可能性が指摘され、各都道府県単位で国に対しワクチンの備蓄要請をしているが、町としての対策は。また、冬期に入り風邪・インフルエンザが流行の兆しを見せているがその対策は。

住民に周知を図り、予防対策に努めたい

薬の安定的な確保等、国・県に働きかけていく他、情報の迅速な把握に努めたい。

ゴミの減量化

人口増加に伴いゴミ量が増加。必然的にその処理費用も増え、平成16年度は5億6千万円となり、このまま増え続けると福祉行政圧



AED (訓練用)

ろ、年間、約100万円の減少になると予測をしている。

藍住町のホームページ

最近ホームページの更新が遅れ気味だが、管理体制は。また、現在、受付中の保育所の入所申し込み等ダウンロード出来る方法はないものか。今後、町行事の案内等も含めタイムリーな表示・更新をお願いする。

更新のルール化を図る

情報内容の確認サイクルの短縮、更新作業の徹底を図っていききたい。

町長の2期目への抱負について

安全・安心の町づくりの確保、町民力の活用等、力強いリーダーシップを期待する。

まず財政再建・行財政改革を成し遂げたい

また、住民の視点に立ち、子供達と共に夢が語れるような、発展する藍住町を築きたい。

AED(自動体外式除細動器)の設置

地域包括支援センター・公正中立な立場から町直営
地域支援事業の介護予防や新予防給付に係るケアマネージメントは、地域包括支援センターにおいて、平成18年4月から運営。高齢者の人権擁護等、相談や支援事業も地域包括支援センターで実施することとなる。